

道連ニュース

2025年10月号 No.226

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

こくみん共済coop北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

第4弾 体験格差の解消企画

ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト
北海道大学工学部環境社会工学科 4年生

都築 穂奈美 (つづき ほなみ)

「牧場の恵みを体験！ 親子で学ぶ食と命の大切さ」



～子どもたちの歓声が響いた、乳搾りとチーズ作り～

日時：2025年8月30日(土)

場所：北海道箱根牧場

主催：北海道生協連・ひとり親とこどもふぉーらむ北海道・(株) FUJI

協力：ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト

去る8月30日(土)、体験格差の解消を目的とした企画の第4弾として、千歳にある北海道箱根牧場で実施された「牧場の恵みを体験！親子で酪農チャレンジ in 千歳」のサポーターとして参加してきました。この日は多くの親子が参加し、子どもたちの笑顔と活気に満ちた一日となりました。

最初は少し緊張気味だった子どもたちも、動物たちと触れ合ううちにすぐに打ち解け、初めて会った子同士で楽しそうに遊ぶ姿が印象的でした。私自身も学生ボランティアとして参加し、子どもたちと一緒に頑張って貴重な体験をさせていただきました。



命の温かさを肌で感じた乳搾り体験

イベントのメインは、牛の乳搾り体験です。本物の牛の大きさに驚き、最初は恐る恐るだった子どもたちも、スタッフの方からコツを教わると、目を輝かせながら挑戦していました。「あったかい！」「本当に出た！」とあちこちで歓声上がり、命の温かさを直接肌で感じていました。参加した保護者の方も「自分も初めての体験だった」という方が多く、親子にとって忘れられない思い出になったようです。



親子で協力！チーズ作りと動物とのふれあい

続いて、搾りたての新鮮な牛乳を使ったチーズ作りにも挑戦しました。グループに分かれ、他の親子とも協力しながら作業を進めます。「おいしくなあれ」と可愛らしい声で呟きながら、一生懸命に牛乳を混ぜる子どもたち。自分たちで苦労して作ったフレッシュチーズの味は格別だったようで、「家に帰ってからも、クラッカーに蜂蜜をかけて美味しく食べた」という嬉しい報告も届いています。

また、牧場には馬や羊、うさぎなど可愛い動物たちがたくさんおり、自由に餌をあげたり触れ合ったりして、子どもたちは大喜びでした。



巨大迷路と、コミュニティの温かさ



体験格差解消への想いと、今後の課題

今回の企画を通して、子どもたちが普段できない体験に目を輝かせ、動物や自然、そして新しい友達とすぐに打ち解ける姿を見て、この活動の持つ大きな意義を改めて感じました。一方で、休日も仕事などで参加が難しいご家庭があることも事実です。今後、どうすればそうしたご家庭にも体験を届けられるのか、活動を続けながら考えていきたいと思います。

食後には、巨大なとうもろこし迷路に挑戦。大人も本気で迷ってしまうほどの難易度で、残念ながら時間内にゴールできた参加者はいませんでした。が、「ゴールしたかった！」と悔しがめる声も聞かれ、親子で協力しながら楽しむ姿が見られました。

この日の活動全体を通して、親御さんが少し席を外した際には、周りの大人たちが自然に子どもに声をかけるなど、参加者同士の温かい見守りの輪が生まれていたことも心に残っています。

参加された方の声

- 車がなかったので、バスでの送迎は本当に参加しやすかったです。牛の乳搾りやチーズ作り等、母である私も初めてで、親子にとってとても良い体験になりました。新しいお友達もできました！
- 娘が動物と触れ合うのが苦手だったのですが、とても楽しそうに餌やり等していて親としても新鮮で楽しかったです！
- 以前他のイベントでお会いした方と再会でき、乳搾りなど初めての体験をさせて頂きとても楽しい1日でした。
- 子どもにとって動物に触れ合いながら身近な食べ物がどのように作られるのかを知るよい機会になりました。普段はチーズが嫌いなのですが、自分で作ったものは興味津々に食べていました。
- チーズ作りで他の親子とも協力し、楽しく作ることができました。「おいしくなあれ」と呟きながら混ぜる子ども達が可愛かったです。
- スタッフの皆さんが笑顔で対応してくださり、ありがとうございました。子どもとの思い出作りがたたくさんできて、とても嬉しいです。

コープさっぽろ×北海道生協連 あいのり企画

「森と遊ぼう！
Fの森フェスティバル in 当別」



日 時：2025年9月23日(火・祝)
場 所：当別道民の森『Fの森』
主 催：コープ未来の森づくり基金
協 力：北海道生協連・ひとり親とこどもふぉーらむ北海道・(株)FUJI
ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト
参加者：大人 31 名、子供 35 名、事務局 12 名

去る9月23日、第5弾こどもの体験格差解消企画として多くの親子をご招待し、当別町の道民の森で開催されたコープさっぽろ主催「森と遊ぼう！Fの森フェスティバル in 当別」に運営サポートとして参加さ

せていただきました。このイベントは、子どもから大人まで自然の魅力を体感できる企画が満載で、全体では300名を超える参加者となった会場は終始たくさんの笑顔で溢れていました。

五感で楽しむ、森のプログラム

会場には「森のゲーム」や「森の迷路」、「森の学校」など、子どもたちの好奇心をくすぐる企画が盛りたくさん。子どもたちは思い思いの場所へ向かい、スタッフの説明に熱心に耳を傾けながら、夢中で楽しんでいました。

「森のゲーム」では、“自然の中にふさわしくないもの”を探するというユニークな内容で、遊びながら観察力を養う工夫がされていました。実際に森のガイドウォークでは、子どもたちが道中の



植物や虫に次々と興味を示し、「これは何？」「あの虫は？」とガイドの方へ積極的に質問する姿が見られ、自然への関心の高まりを感じました。

また、会場ではヨガや健美操といった企画も行われており、大人たちも秋の澄んだ空気の中で心身をリフレッシュし、ゆったりとした時間を過ごしていました。

10年後の自分へ、未来へのメッセージ



特に印象的だったのは、10年後の自分に向けたメッセージをタイムカプセルに入れる企画です。親子で

「10年後は何歳になっているかな」「字が上手になっているかもね」と、未来の自分に思いを馳せながら楽しそうに手紙を書く姿は、とても微笑ましい光景でした。



みんなで育む、未来の森づくり

イベントの最後には、6名のこどもたちが選出され記念植樹が行われました。ガイドの方に教わりながら、子どもたちが一生懸命に穴を掘り、保護者と私たち学



生スタッフと協力して苗木を植えました。この木が10年後、20年後に大きく育っていくのが楽しみです。

今回のイベントは、子どもたちが自然の豊かさや大切さを学び、そして未来への夢を育む、非常に貴重な体験となりました。



参加された方の声

- 森の中を歩くだけでなく、ゲームや迷路など、子どもが飽きない工夫がたくさんあって一日中楽しめました。ガイドの方のお話も面白かったです。
- 10年後の自分に手紙を書くなんて、普段なかなかできない体験で感動しました。子どもと一緒に未来の話ができて、とても良い時間になりました。
- 最後の植樹が心に残りました。自分たちが植えた木が大きくなるのを見に、またこの森に来たいと思います。素敵な企画をありがとうございました。
- 札幌からのバス送迎があり、無料で参加できたので本当に助かりました。自然の中で思いっきり体を動かして、親子共々リフレッシュできました。

ピースフォーラムinチカホ 開催報告

コープさっぽろ 組合員活動委員会 副委員長 本間 恵理子



9月7日札幌地下歩行空間にて2025ピースフォーラムinチカホを開催しました。

これまでは小さな会議室で開催してきましたが、戦後80年という節目の年を迎えるにあたり、より多くの方に立ち寄っていただけるよう、今年はチカホで開催することにしました。

今年は札幌市との共同開催とし、札幌市平和訪問団の方々の描いた絵や16の間パネルなども掲示したほか、「戦争ぼうきづくり」ワークショップ、絵本「へいわとせんそう」のパネル展など小さいお子さんから大人まで興味をもっていただけるように工夫しました。

午後からは、8月4日～7日に実施した平和スタディツアーの報告会を開催しました。参加した生徒からは、学びをさらに自分たちで探求した事例報告があり、会場に足を運んでくださった方々はもちろん、オンラインで視聴された多くの方々にも発信することができました。

生徒たちは、核の怖さを多くの資料で調べ、自分の言葉や映像で伝えてくれました。被爆者の講話からは、戦時中の悲惨な状況の中にもささやかな日常があった



ことを感じ取り、その思いを語る姿も多く見られました。

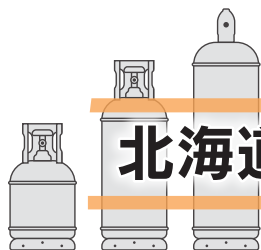
また、現地講和での学びでは「黒い雨」の事例を印象深く受け止める生徒が多く、実際に聞かなければ知りえなかった事実として報告してくれました。

札幌市平和訪問団の4人も交えたディスカッションでは、「平和を守るためにできること」や「平和×〇〇」といったテーマについて、それぞれが自分の考えをしっかりと述べていました。日常生活では「平和」という言葉を使う機会は多くありませんが、当たり前にも暮らせていることこそが平和であることに気づく場ともなり、小さな平和から大きな平和までを感じ取るきっかけになってもらえたらと思います。

ピースフォーラムを通じて、参加した多くの方がそれぞれの視点で平和を考え、それぞれが想う平和につながっていったなら、嬉しく思います。

コープさっぽろは、これからも様々な形で平和を「つなぐ」活動を続けていきます。





北海道 L P ガス意見交換会 報告

8月27日(水)資源エネルギー庁主催の北海道 L P ガス懇談会が大島教授(北星学園)を座長に「保安」と「省令改正による料金の透明化・取引の適正化」をテーマにオンラインで開催されました。主に「料金の透明化・取引の適正化」に関し以下、報告致します。

参加者は消費者委員として弊会を除き、北海道消費者協会・全国消費生活相談員協会北海道支部 事業者委員は北海道 L P ガス協会、他北海道・札幌市・北海道経産局・資源エネルギー庁でした。弊会より以下の質問を行い、ご回答を頂きました。

質問

3部料金制の徹底に関し、北海道 L P ガス協会のウェブサイトのお客様向け頁「L P ガス料金について」の内容が、いまだに「二部料金制が普及しています」となっていること、への改修の計画や目途についてお聞かせください。

改修に着手しており、9月中旬に修正されます。
(北海道 L P ガス協会)

回答

質問

北海道の3部料金制の徹底(設備料金の外だし表示状況)について実態を教えてください。

完全実施1,238事業者で(実施率)98%位、一部実施16事業者未実施7事業者とのことです。(北海道 L P ガス協会)

回答

質問

3部料金制の徹底のための実態調査の有無の意向や追跡調査や立入指導等についてのご見解を教えてください。

昨年、エネ庁から示されたチェックリストがあり、それに基づいて去年の7月2日から改正したチェックリストをもとに振興局で対応しています。ガイドラインについては三部料金制に限ったものでしたので、令和7年度の立ち入り検査の自主方針にも三部料金制を入れて、チェックリストの様式も変えて対応することになっています。立ち入り検査は北海道でも行っており令和6年度は272件の立ち入り検査を行っています。北海道全体を4~5年かけて立ち入り検査することにしており、できる限り順番に回り、その中で指摘のあった事項については指導をして補正していただく、という形の報告をいただいて終了するという対応をしております。(北海道)

回答

質問

全国LPガス振興センター「令和6年度石油ガス流通・販売業経営実態調査結果概要」報告に関連してオーナーや不動産事業者からの生活設備費用負担の要求は、オーナーからが85%、不動産業者からが約70%に対し、連携する国交省の評価と今後の対応への見解

回答

オーナーからの強要については、通報フォームでもかなりそういう事例が上がってきており、国交省にもそういった情報を共有しながら、国交省でもヒアリングなどを進めているところです。国交省とはできる限り連携をしていくということもありますので、そういう事業者が多いのもあって難しいところあるかと思いますが、通報フォームを活用していただくと、実際に相手先に対してヒアリングなどを行う材料になります。そういう形で今後も引き続き連携を進めていくところです。(エネ庁)

事業者として省令改正以降、不動産管理会社やオーナーに対しての説明を業界がやるべきこととして粛々と進めているというのが現状です。

正直者が馬鹿を見るような制度ではいけないということは、事業者側も抜け道を作って何かしようというところが見えてきますので、北海道では業界を上げて不動産管理会社に対する説明をして一定の成果や評価をオーナーからいただき、ご理解をいただいているというのが北海道の現状です。(北海道LPガス協会)

質問

取引適正化への対応状況における賃貸集合住宅に関する料金の情報提供状況
①すべての物件で情報提供している事業者約40% ②情報提供していない約35%に対するエネ庁の評価と今後の対応についてお聞かせください。

回答

ワーキンググループの中ではまだ具体的なところまでは示されておらず、いろいろな意見が出ていたという状況で、エネ庁でも十分に精査できている状況ではないです。いろいろな条件によって変わってくるところもありますので、一律に、ということも難しいですし、事業者にヒアリングをしていかないと分からないところかと思っていますので、統一的な対応ができるのかどうかも含めて、今後課題であるかと思っています。そういう意味ではまだ具体的なところまではできていないということです。そうです。いろいろなことが示されてきていますが、個別に事情が違うところもありますので、そういった点も踏まえて、どういう判断ができるかということもあります。今後は具体的なものを示せるか、どういう示し方がいいかということも含めて、これから検討してかなければいけないと思っています。(エネ庁)

質問

自主取組宣言を公表した事業者割合はスタートして一年以上の経過で全国平均で18% 北海道は25%、大分県は100%となっています。
北海道LPガス協会様の評価と対策をお聞かせ下さい。

回答

自主取組宣言につきまして、直近では380社くらい行っております。これは各卸売を通じて事業者をお願いしている状況になります。自主宣言は全国で(ブロック別では)2番目になっています。件数は少ないですが、全国的には少ないとは言えないと思っています。

今後も、エネ庁の取り組みを注視しながら、「料金の透明化と取引の適正化」を一步でも前に進むよう対応していきます。